

ICカード公衆電話機

1999

新形デジタル
公衆電話機

2005

新形アナログ
公衆電話機

2016



1999年(平成11年)

平成11年3月から、非接触式のICテレホンカードを使って通話する新しい公衆電話機がお目見えした。従来の公衆電話機に比べ、小型化するとともにICカード本来のセキュリティに加えネットワークを通じて結ばれるセンターでカード1枚ごとに情報を管理し万全のセキュリティを実現。抜本的な変造テレホンカード対策を図った。

特徴

日比野克彦氏によるカラフルなカラーデザイン(2種類)を採用。赤外線通信機能(IrDA)を標準搭載し、携帯情報端末とケーブルレスで通信が可能。ICテレホンカードはカードポケットに2枚まで同時に入れることが可能。

2005年(平成17年)

平成17年4月から、ユニバーサルデザインを採り入れた新しいデジタル公衆電話機を導入した。

特徴

大きく見やすいダイヤルボタンと文字、凹凸でわかりやすく、投入しやすいガイド付きコイン投入口、暗い場所でも見やすいオレンジバックライトの液晶ディスプレイ等、だれもが使いやすいユニバーサルデザインとなっている。また、一目で公衆電話とわかるグリーンのカラーリングを採用した。

2016年(平成28年)

平成28年2月から、新形デジタル公衆電話機の筐体を流用したアナログ公衆電話機を導入した。

特徴

新形デジタル公衆電話と同様の外観を流用し、回線種別のみアナログを採用。

公衆電話料金

	1997年	2014年	2019年	2024年
	通話料金の改定			
市内		2014年4月から57.5秒につき10円	2019年10月から56.0秒につき10円	2024年1月から全国一律56.0秒につき10円
市外	1997年4月から2014年3月まで20km以内の通話が42.5秒につき10円等	2014年4月から20km以内の通話が40.5秒につき10円等	2019年10月から20km以内の通話が39.5秒につき10円等	